

でも、
絶対帰りますから
ごめんなさいあなた…

セックス代行屋さん ～妻と見るネトラレ記録～



「ただいま……」

「おかえりなさいーい」

ぱたぱたとスリッパを鳴らして妻が駆け寄ってくる

「ただいま」

「おかえりなさいー」

パッと笑顔が見えた時、少し疲れが飛んだ気がする



「ご飯出来てるけどどうします?」

「うん、先食べたいかな」

「はい、じゃあすぐ温め直しますね」

「うん」

「おくらららら」

「……」

「……なんだね」



「おいしそうに食べてるから見てるだけ」

「そう?」

(新婚か?)



「……今回もおつかりです」

「おはよう」

「あなた……！あの、明日はどうかしら？」

「……めんっ！仕事かき……まだしばらく大変みたいで」



「どう……忙しいの？めんね……」

「……めんね……」

「でも月末が過ぎれば落ち着くみたいだから、そしたら、ね！」

「いえ、こっちこそごめんなさい……！！
今日だってこんなに遅くまで……」

「ううん！来月は早く帰ってみせるから！」



（もう夜10時、むしろこんな時間まで起きて自分としてくれてんだ……
来月は絶対……！！）

「わかった。楽しみにしてるね。
それじゃお先に、おやすみなさい」

「おやすみ」

(来月こそ絶対やる……!)



数日後

(月末までもう少し、そう思うと朝でも浮くらで〜)

「ねえ……あなた」

「……?どうしたの」

(分かってる。)

妻がこういう時は決まってエロいお願いに決まっている)



(先日から妻が頻繁にオナニーをしている)

(あからさまに上気していたり、やや匂ったり、
甘えた声になっていたり、バレバレなところがとても愛おしい)

(まあ今回も何かそういったHな話だろう)



「・・・?そんなに相談しづらいこと?」

「これ、頼んでみたいな・・・って」

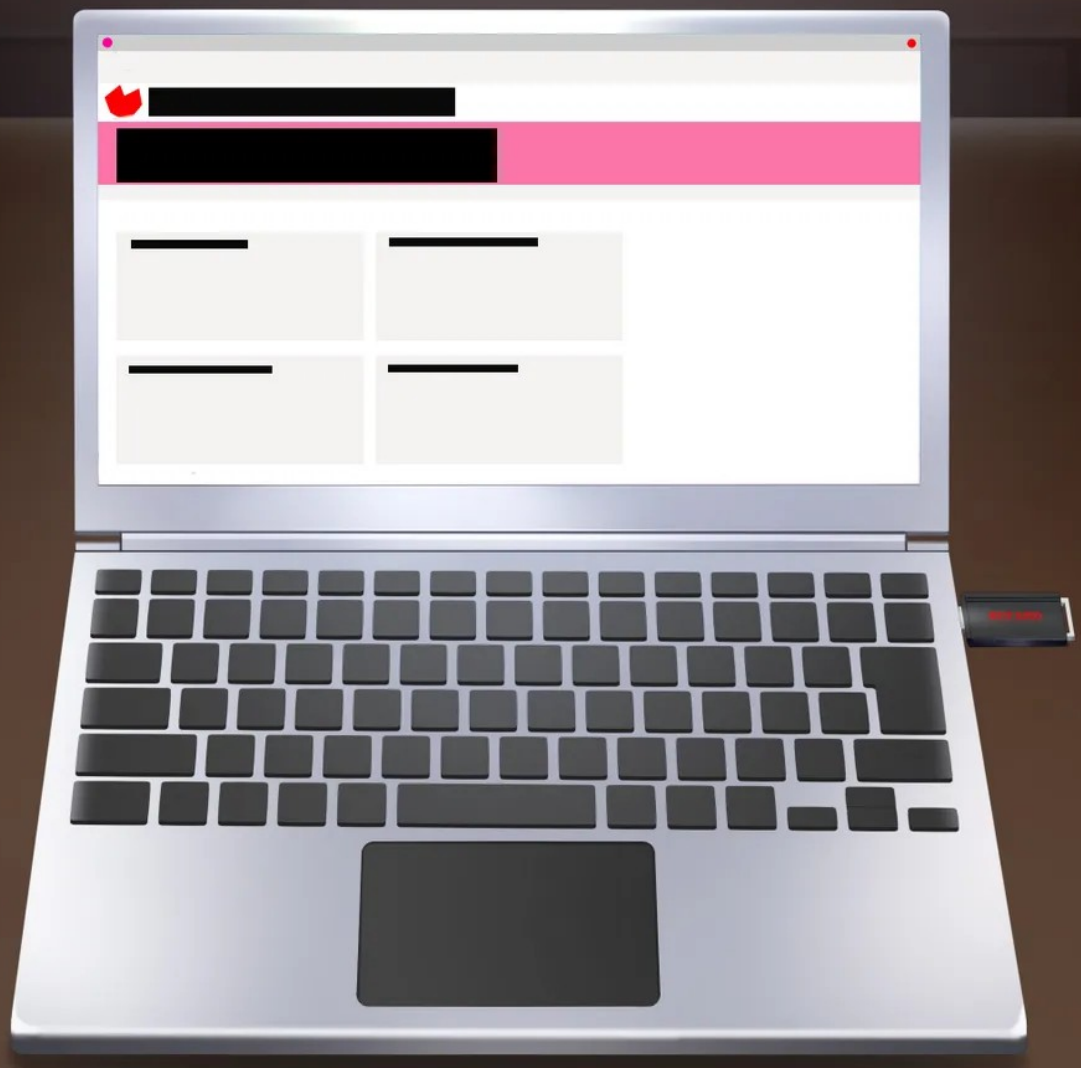
「?」



パソコンがそっと僕に向けられる

画面には日常ではおおよそ見ることのない単語が写っていた

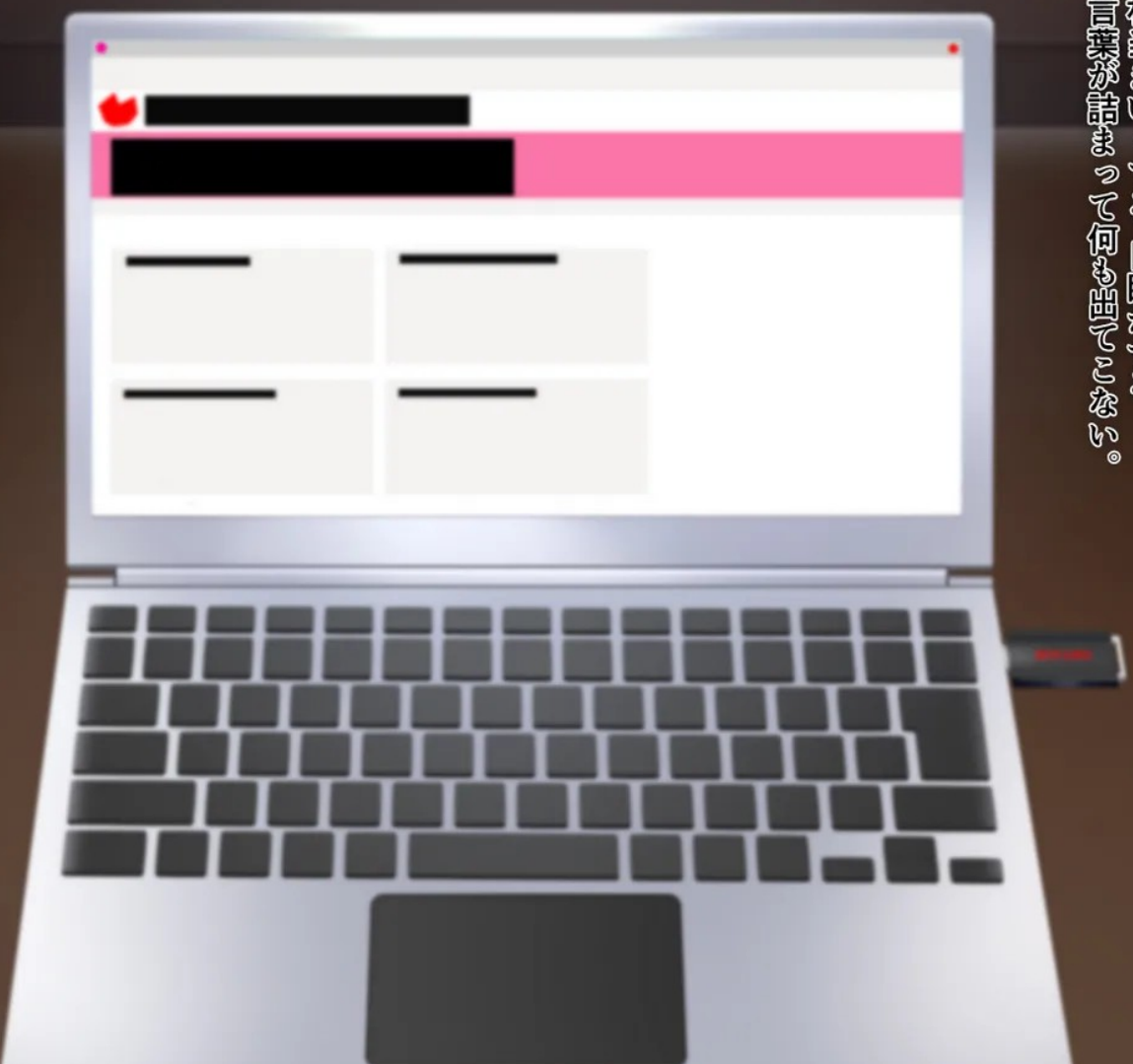
『セックス代行屋』



目の前の文字を盗み書きし続ける

妻が、何か説明をしてくれる。
なんだろっつ。何か言ってる気がする。

相談してる。相談してる。
言葉を詰まっつて向かい合ってる。



この時はまるで頭に入ってこなかったが、
書いてある内容はこうだ

性のお悩み相談のようだが本質はセフレの募集・スワッピング……
いずれにしても退屈的な快感を求める人募集というもの

「……」

口を開けている筈なんだが、声が出てこなかった

「「めんなうらー……忘れてくださうら」



「……………ッッ！」

もう呆れに取って代わり怒りが沸いていた
妻がそんなことを言い出すことが許せない

言わせてしまった自分も許せなかったはずなのに

「いめんながら……もう寝ますね」



「……やってみれば」



「あなたに言われてね。行って見たの」

「……っ。……っ。……っ。」

(声がでない。胸が苦しい)

パン

パン

オッ
オッ

ゆよ
ゆよ

あ

(こんなに苦しいのになんで君は笑顔なんだ?)

「怖かったんだけど。行って見たらすごいスッキリしちゃった」





「あなたも見ているせいか録画してもらったんだから」
考えがまよまよなら、画面から目が離せな



妻が僕の顔を覗き込んでくることと気づかなかった
同時に、勃起していったことも



「う……おははははは……」

「私、おははははは……」

んっ

んっ

あ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

あ

んっ

んっ

んっ

んっ

「んっ♡だめ♡だめえー」

「んっ♡あっ♡あっっ♡」



「ああー激しっー」

「イギリスっよっー奥さんッ」
(中で出す気がおもしろっ！)

ぽん
ぽん
ぽん

ぽん

ぽん

びゅびゅ

びゅびゅ

ぶちゅ

ぶちゅ

ぶちゅ

だやっ

あっ

んっ

「あああああ♥♥♥んんんッ♥♥♥」



「はぁ、はぁ……♡」

「ふう……、一旦抜きますよ」

「ああん♡」

ん♡

びしょ

びしょ

ああん♡

ん♡

びしょ

びしょ

ああん♡
びしょ

「あんなに……♡」
「あんなに……♡」



「すいません、デリカシーなくて…」

「僕とても気持ちよくて、奥さんも気持ちよくなっていただけでたら良かったんですが…」

しる。

ビクッ

ん♡

はっ

ん♡

アッ♡

ん♡

ん♡

「……………気持ちよかったです」

「よかったー！」



「あっ♡またおちんちん大きく…」

「奥さんの感じてらる姿を思い出しちゃらまじで…
よければもっと見せてもらえませんか？」

「あん♡そんな押し付けながらお願いされたら…♡」

♡ん♡

♡ん♡

♡ん♡

♡ん♡

♡ん♡

スリ

スリ

♡ん♡

♡ん♡

「お願いされたら？」

「……………」

「私、こんなに声大きかったんだ…恥ずかしい」

「あなたも見て。あんなに跳ねて…この時すごく気持ちよかったの」

「奥さんっ。可愛い！可愛いですよー」

「ごうやっで、ずっと可愛い可愛いっておだてられちゃって」

「久しぶりに可愛いなんて言われるから恥ずかしかったんだけど…」

じゃぽ
じゃぽ

ん

ん

ん

ん

ん

ん

「見て♡イってる…可愛いって言われて
おまんこ突かれて、あなた以外のおちんちんでイってる…」



「あなた？ヨレ♡ズボンから出してあげましょ？」

「……こんなに大きくして♡
私のビデオで大きくしてくれたの？嬉しい……♡」

「♡」

「ペース…あげますよ♡」

「突かれてるペースに合わせて♡しゅっしゅっ♡」



じゃぽ

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

「あなた♥気持ちいいですか？教えてください♥」

「……ん……」

「こんなに硬くして…気持ちいいんですよね♥
…もしかして、いつもより大きくないですか？」

「射精ます！奥をんっ！」

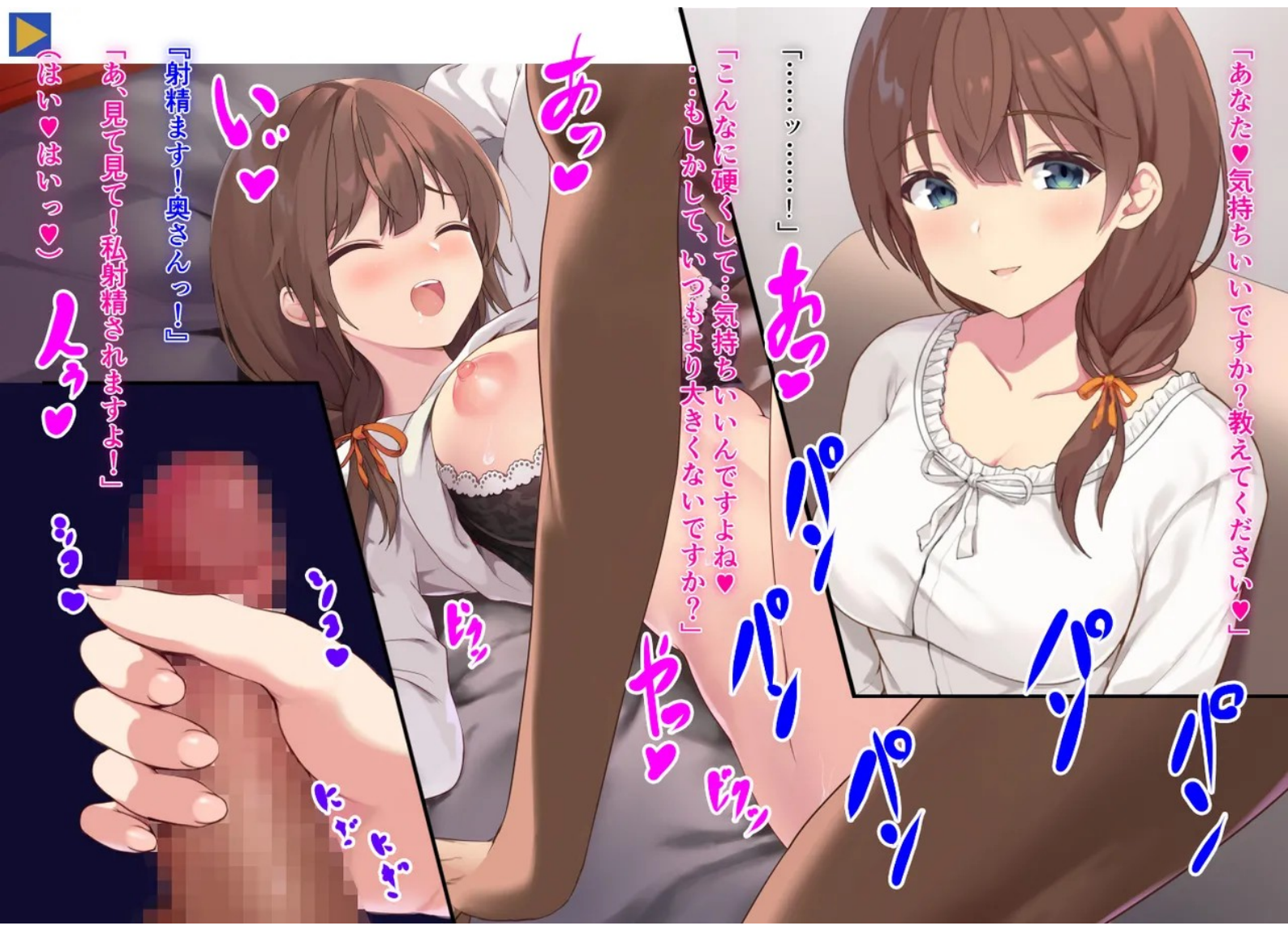
「あ、見て見て！私射精されますよ！」

(はっ♥はっ♥)

んっ♥

んっ♥

んっ♥



「はあっ♡いっぱい！手から溢れちゃう…♡」

「ああ♡あん♡ダメエ♡んう♡イクウ♡」

あ♡

「こっちの私は何度も何度もイカされて…♡」

「おっ！んっ！んんん！」

「あんなに激しく乱れてたんだ♡」

ズボ

ズボ

びゅ

「…あなた」

あ♡

あ♡

びゅあ♡

妻と目が合った瞬間
妻の恍惚とした顔を見た瞬間切れた

「キヤッ！」

妻の手を乱暴に引っ張った

「あなた!?!」

「こっち来いッ！」



妻を寝室で放り込んで言った

「まじかよ!」まじで狂ったとは思わなかった!!」

「違っ…違うのあなた」

「軽率でした…っ、ごめんなさいっ！」

「いやー…こういう方が好きなんだろっ！」

「ごめんなさいっ！あなたっ…あなたあっ！」





激しいセックスをした
初めて妻を抱いた。そんな気さくをするような激しさだった

「…満足かい？」

「……いめんない。

もう二度とあんな真似しません……」

「いや、君の淫乱さは前々から知ってたから……別だ」

(何回オナってたところを見たよ……)

(淫乱……)

「他人を受け入れていたのは本当にショックだったけど
でも、こんなになるまで待たせちゃったのは僕だ！」

「嫌だけど、コレでスッキリしたのなら、もうそれでいいかなって……」

「……………はい」

「ごめんね。ずっと独りにさせて……………」

「私の方こそ、勢いに任せて……………ごめんなさい！」

「だから……………」

そうやってモジモジしている時、

「……………
てこうだ

「今度はちゃんと聞きますね」

(言わ)

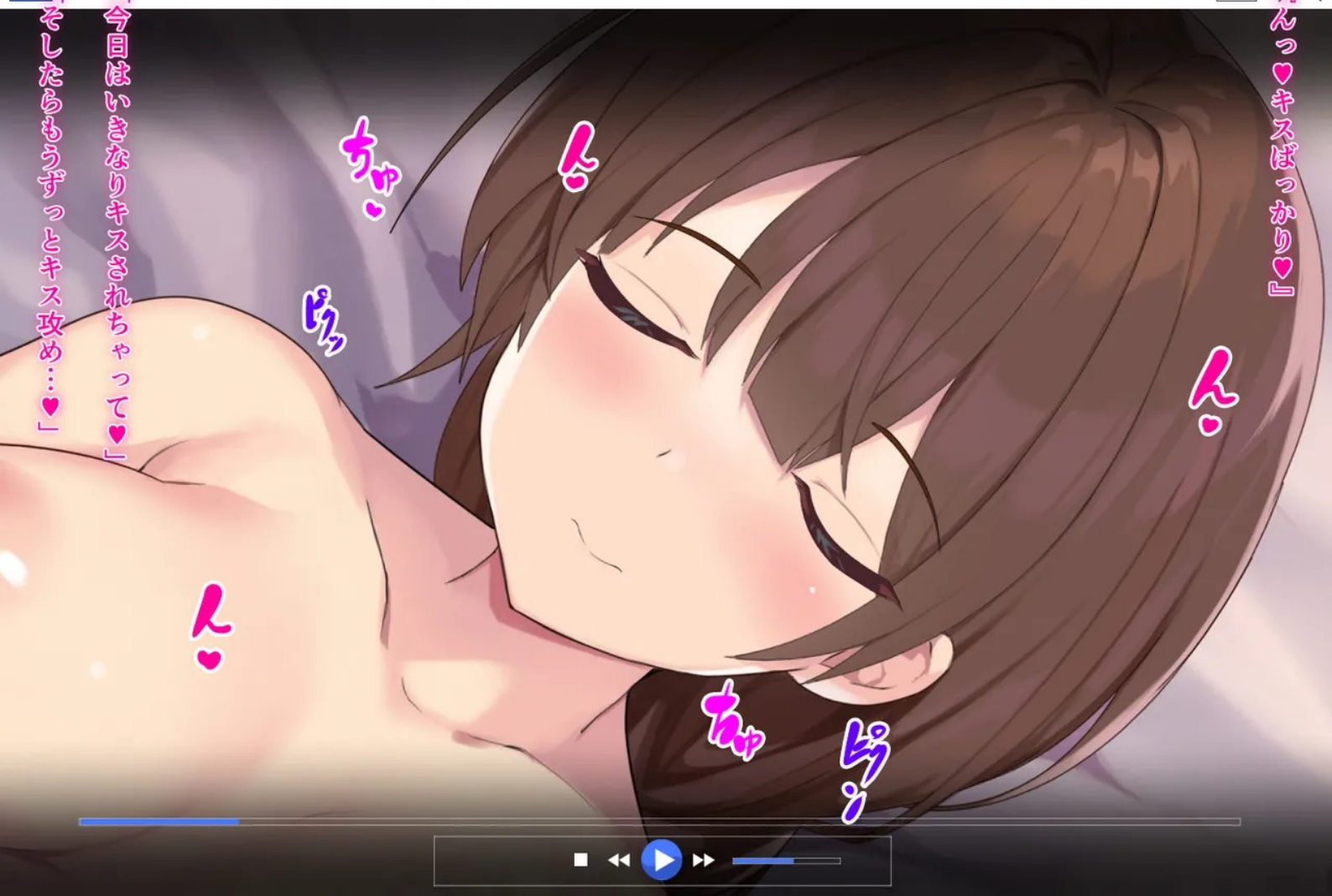
「あなた……………もし、また行きたいって言ったら」

「止める？」

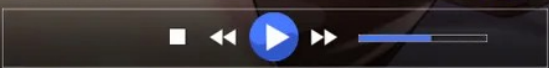
また数日後



「んっ♡キスばかり♡」

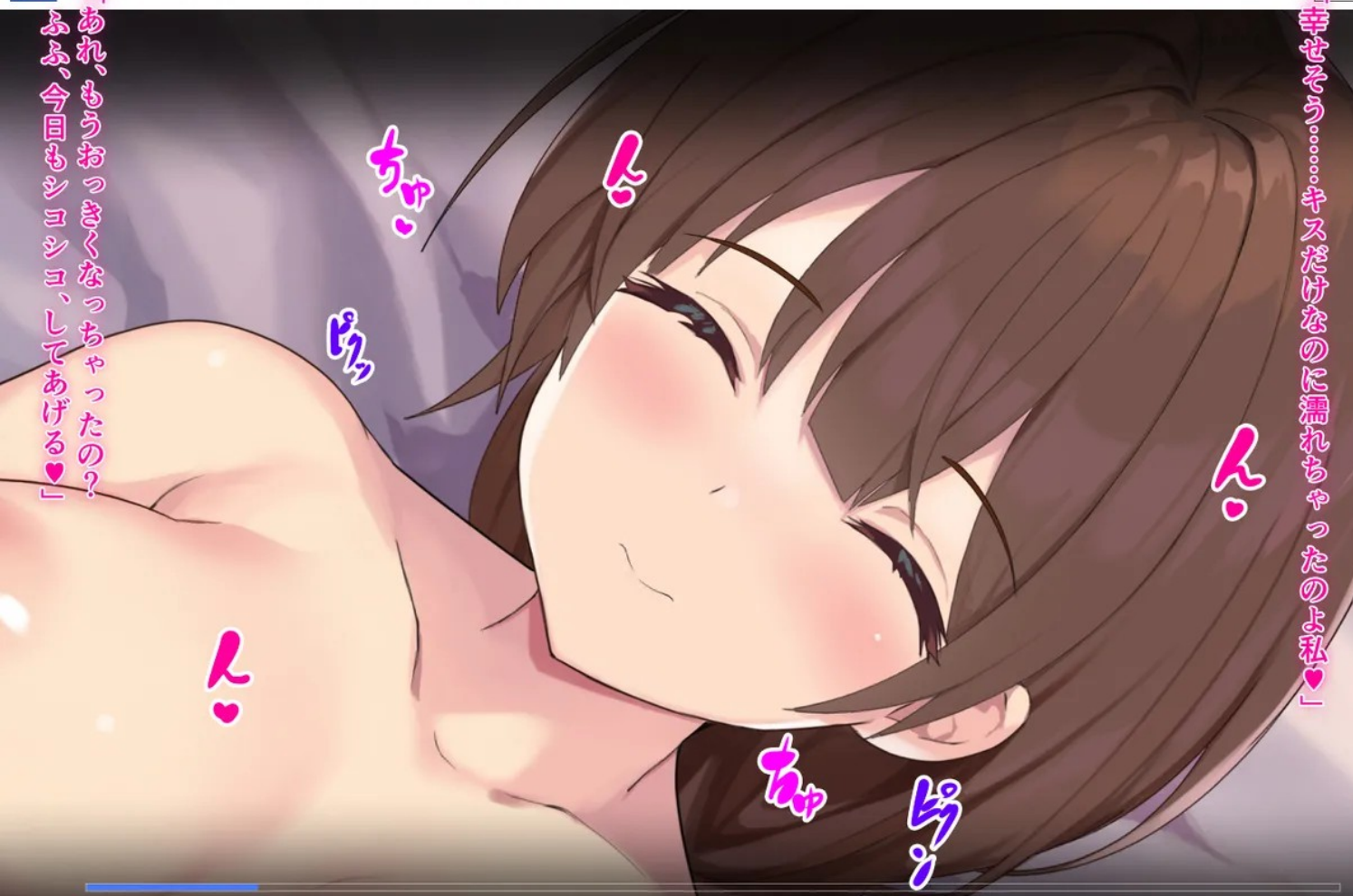


「今日はいきなりキスされちゃって♡」
「そしたらもうずっとキス攻め…♡」

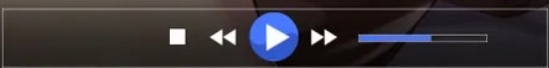


「キスって「ん」なだ気持ちいいんですわね」

「幸せそう……キスだけなのに濡れちゃったのよ私♡」



「あれ、もうおっぱきくなっちゃったの？
ふふ、今回はシヨシヨ、してあげる♡」



「キスし終わったころにはすっかり出来上がっちゃってね」

「ピクン♡ピクン♡って軽くイっちゃった♡」



「そしたらベッドに押し倒されてね♡」

「脱がされて♡おっぱい揉まれて♡またキスされて♡」

「また何分経ったか分からないくらいずっとキスしてたの♡」



「...あなたのおちんちん、もうぬるぬるしてきた♡」

「あなたもキスするのっ...っのっ...じゃあ」

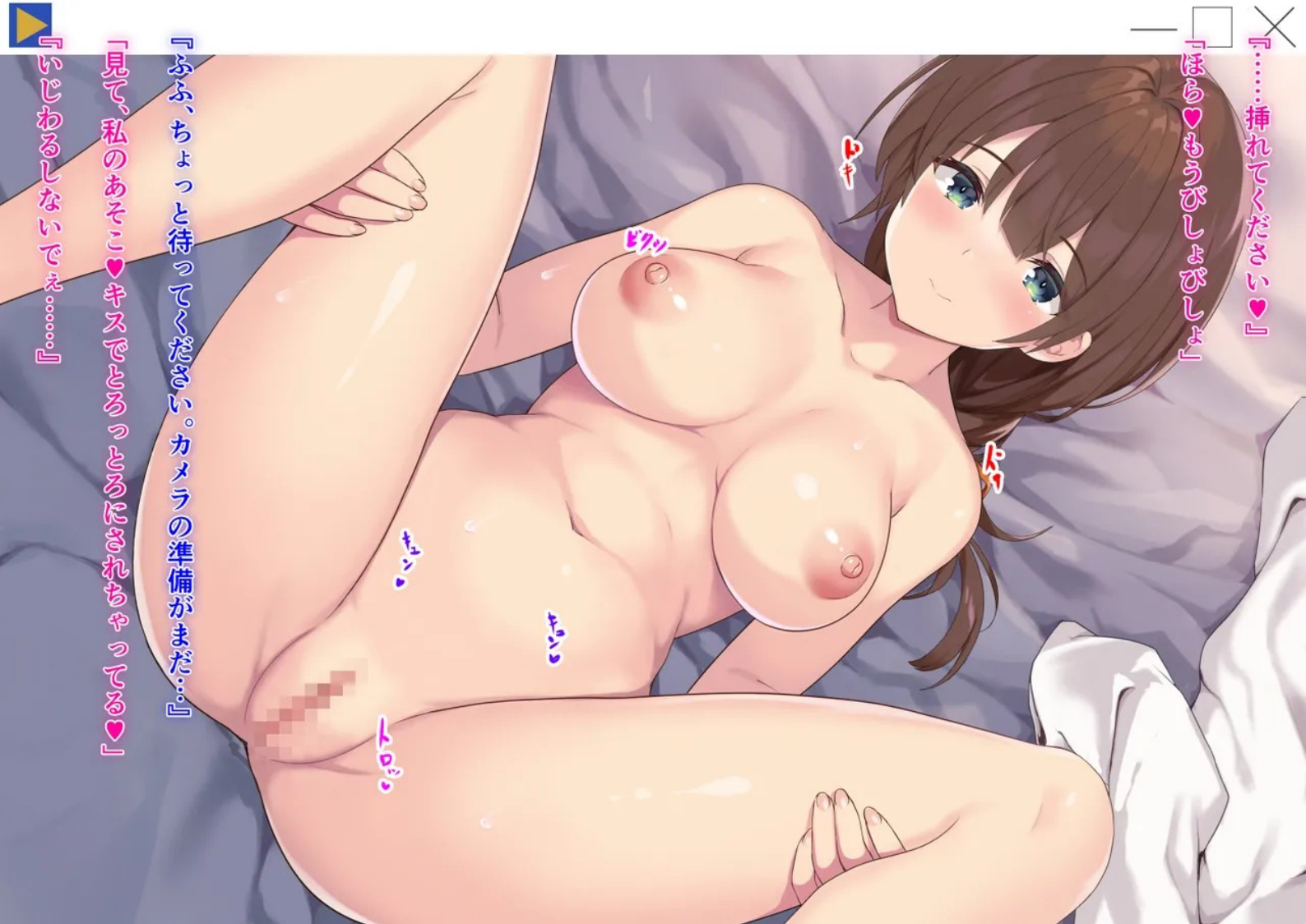


「いっぱいエッチな姿撮ってきたから
今回も一緒に見ようね」



「……挿れてくださるら♥♥」

「マ○こ♥さ○び○こ○ま○び○こ○ま○」



「ふふ、ちょっと待っててください。カメラの準備がまだ…」

「見て、私のおまんこ♥♥キムでどぶっどぶっどぶっなれちゃっ♥♥」

「さっじゅんしてなごいね……」

「あの人、あれだけキスしてたのにセックスはじらしてね」

「さ、準備できましたよ…な、なんでしたっけ？」



「その…おちんちんっ！挿れて…♡」

「つい、おねだりしちゃった」



「良く言えまし…たっ！」

「ああああああ♡挿入ってええ♡」

「ふふ、私ったら気持ちよくなって腰くねくねしちゃってる…♡」



「…なっ♡」

「…♡♡♡したの♡」



× 「カメラは……男が持ってるのか」

□ 「ええそうよ。前のはちよっと角度悪かったから
見やすい様に持ってもらってるの」



「…」

「よく見えるでしょ？私の繋がってるところ」

「ああ……綺麗だよ」

あ♡

「あ！そろそろ私いっちゃうわよ」





「んっんん♥おちんちん♥おちんちんですっ♥」

「おっっっっっ」

「おちんちんが気持ちいいんですっ…♥」

「はっ…はっ…よく言えました…っ！
じゃあご褒美っ、あげましょうねっ！」

「あん♥はげしっ♥イク♥イっちやう♥」

あ
ズズ

あ

ズズ

ズズ

あ

ズズ

ズズ

あ

あ



「うきうき...うきうきうきうき」

んんん♡

おんんん♡

んんん♡

どろろろろろ...

おんんん

おんんん

どろろろろろ

んんん!

おんん♡

お♡

「ああああああ♡♡♡♡!♡♡♡♡」



「はあはあ♥キス…っ、キスしましよっ♪」

「はーん…」

ちゅ♡

アア♡

ピクッ

ちゅ♡

ー♡

ちゅ♡

んー♡

ピクッ

トラクッ♡
トラクッ♡

ちゅ♡

「んんんん…」

「んんんん…♥」

「んっ、もう動くんですか?」

「まだまだ、時間ももったいないですからね」



「っっっい気持ちよくなってもうたからですし……」

「んっ、はげし……っ♡」

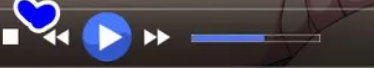
「あなたも気持ちいいっ！」

「うん」

「いってます！いってますからあ！」
「この後私気絶しちゃったらしいんだけどね」

「えっ…大丈夫ッ!」

「あっ大丈夫！大丈夫。
特別におかしいことはなかったから」



「心配しないで、代わりと言っては何だけどおみやげ貰ってきちゃった」

「あなた、見て。私のこれ」



あー♡

あ♡

あ♡

あ♡

あ♡

あ♡

あ♡

あ♡

あ♡

妻が突然スカートに手を突っ込んだ

「一個、挿れっばなしにして帰ってきたの♡」

あ♡

スカートから出てきたピンクのリンゴは、夫の愛液と

「今、出されてるやつかな？帰ってくる最中、
ずっとおまんこにこれが挿ってて！」



「誰かに気づかれちゃうんじゃないかって」

「ドキドキしながら帰ってきたの♡」

画面のこいつが入っていた

「もし誰かに見られたら……裏われちゃったのかな？」

「……………」



「……ねえあなた♡」

「こんなゴムじゃなくて、あなたののでらっばらだして♡♡」

「もし裏われても大丈夫のようにマーケティングして♡」
「あなたのせーして♡ゲームンで♡」

「…ッ!!」

「いたっ、そんなに強く引っ張らなくても逃げませんでしたら」



「いぬわー…「寝違ひ」がなつて困るわッ」

「いぬんさー…でも、キス…キスして
全身、あなたでいっぱいにして♡」





「あっ♡あっ♡あっ♡」

「イクウ♡またイクっ♡」

「私も…っ！おぉっ！」

「んっ…んんん♡」

ん♡

アハハ

あ♡

アハハ

ん♡

アハハ

ん♡

ん♡

アハハ

ん♡
ん♡
ん♡
ん♡
ん♡
ん♡

ん♡

「おお……中だ旺しちゃったけど」

「今日は大丈夫なんです♥」

「さっき薬飲みましたのでっ♥中だっ♥大丈夫っ♥」

「動きながら言っつことですか…っ!」

知

パニ

お
ネイ

お
ネイ

ん

パイ

ん♥

「激しっ♥興奮したんですか…っ?」

「する前からゴムしなくていいって話したじゃないですか」



「んっ♡んっ♡んっ♡んっ♡」

「ふっ…ふっ…ふっ…ふっ…」

「あ、膨らんできました♡射精るんですねっ？」

んっ♡

おっ
おっ
おっ
おっ

おっ
おっ

おっ

おっ
おっ

んっ♡
んっ♡
んっ♡

んっ♡

おっ

んっ♡

「射精♡して♡ださ♡ら♡♡」

「あっ…もっと激し♡♡」

「ふーふーはー♡♡」

「私もまたイきますー!」

あ♡

ズイ♡

びんびん

びんびん

ズイ♡

ん♡

ズイ♡

ズイ♡

ん♡

「ああ♡あん♡」

「イっ♡イっ♡」





「あっ♡はっ♡んんん♡」

「ああああああああああ♡」

あっ♡

あっ♡

あっ♡

あっ♡

あっ♡

あっ♡

あっ♡

あっ♡

あっ♡

あっ♡

あっ♡

あっ♡

あっ♡



「はぁ♡はぁ♡」

「おっおおおっ！」

「またイっちゃいました♡」

「ふふ、今度はあなたの精子でイっちゃいました♡」

↑♡

ぴゅ

↑♡

↓♡ ↓♡

ぴゅ

♡

トーン♡

トーン♡



「……………」

←♡

「♡おっおおおっ！」

「なにが小さくなったのか、ちゅんと言っ」

「え？もう……おちんちん♡おちんちんです♡♡」

「よく言えまし……たっ！」

ちゅんちゅん

ピクッ

ちゅんちゅん

ん♡

ん♡

ちゅんちゅん

ん♡

「あんっ♡」
「いきなり突っ込んで♡こんなこと言わせる悪口は誰じゃ♡すっ♡」
「んっ♡」



「んっ♡キス気持ちいい♡」

「あっ♡また大きくなってきた♡」

「もっと大きくしましょうね♡」

ん♡

ぴゅん

ん♡

ん♡

ん♡

ぽんぽん

ん♡

ぽんぽん

「もっと♡もっと大きくして♡」



「あっ♡あっ♡あっ♡膨らんで♡おっき♡」

「おおお…激しいですッ奥さんっ!」

「ダメえ♡腰が♡勝手に動いちゃう♡」

あ♡

ん♡

下♡

あ♡

ん♡

下♡

あ♡

下♡

下♡
下♡

下♡

あ♡

ん♡

「あんなに♡♡♡♡♡」



「私ばかり気持ちよくなっちゃって…♡」

「こっちは動らなくても勝手に悪いです！
それと僕も気持ちいいですよ…！」

あ♡

ん♡

あ♡

下♡

あ♡

ん♡

下♡

下♡

下♡

下♡

下♡

あ♡

ん♡

「よかった。じゃあ…さっさと気持ちよくなるから早くして♡」

「まだ濃い♥あなたも負けてないわね」

「お前が撮って来てくれたから……」

「うん！撮ってきてよかった」



「あ、映像終わっちゃった」

「あなたも気持ちよかった？」

「アァ……今回もよかったよ」

「…あなた、今日はしないの？」

「ふ…ふふ……とんだけ淫乱なんだお前は」

「ごめんなさい、あなた…でも私、あなたとしたい」

「今日もあなたでいっぱいにして♡」

すり♡

「あ…じゃあ今日は上になってもらおうかな」

「私もそうしたいと思ってたの！じゃあ私が上になりますね♡♡」

すり♡



「ねええ？次回のことなんだけど……」

「……どうして、聞いてるの？」

「ええええええ」



「ん？行きたいんじゃないの？」

「ううん、ありがとうあなた！愛してる♡」

「……」

「あなたのためにもっとイイの、撮ってくる……♡」

「あ、あつしなひゃ」

「はい。みなさん今回はお集まりいただきまして有難うございます」

「この服、通販で買ってみたんだけど...
みんなにエッチだって喜んでもらえたわ」



「」

「」



「みみもえ蒸散じや...」

「見てわてしちゃダメじゃね」

「あっ♡ほっ♡もっ♡どっ♡やらしく振りますから...っもっとお♡♡」

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

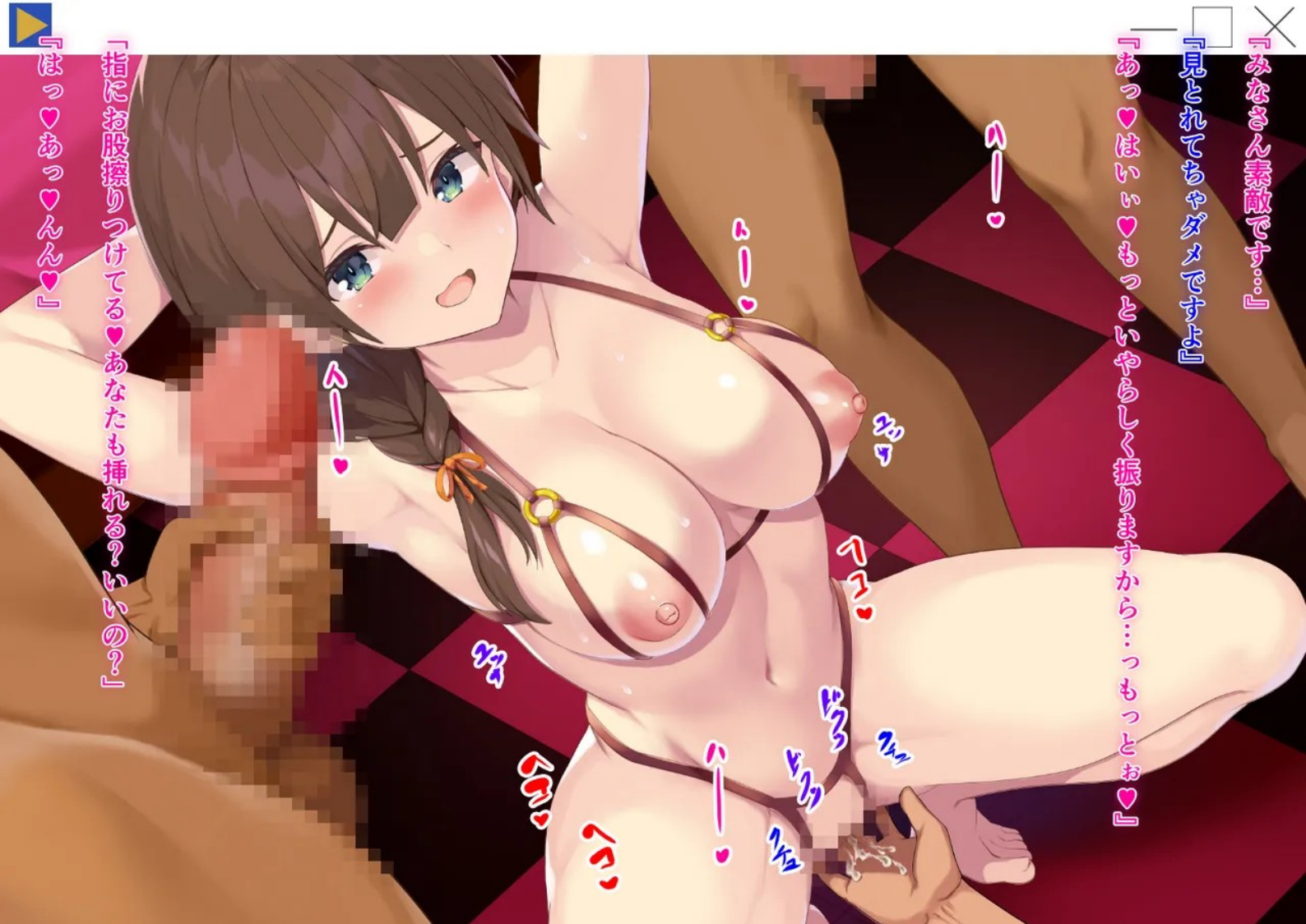
♡

♡

♡

「指にお股擦りつけてる♡あなたも挿れるっいいのっ」

「はっ♡あっ♡んん♡」



「あつ、シコシコ始まった」

「ねえ。手前のおっきいちんちんの人いるでしょ？」

「この人、私の膣内に入れたらもっと大きくなってるね♡」

「ゴリゴリして気持ちいいんだけど」

「乱暴に突いてくるから壊れちゃうかと思っちゃった♡」



「イってるのに♡子宮が潰れるくらい押し込まれて♡
またイかされちゃうの♡」



「みなさんおちんちんビクビクしてます♡出るんですか？
じゃあ……かけてください♡私だっけ♡ぶっかけ♡」

「出ますよっ！奥さん！」

「お願いします♡へだたは♡♡♡」

「おおおおおー♡くー♡」

「ああ♡あっ♡♡」

♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡

♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

「そろそろ奥さんもちゃんとイきましょっ！」

「あっ♡んっ♡指はげしっ♡イクッ♡イクっ♡ちっ♡♡」



「あああああああ♡♡♡♡♡」

「んん♡♡♡あああああ♡♡♡あああ♡♡♡♡♡」

「はあ…はあ…」

「疲れちゃいましたか?」

「ふふ、全然大丈夫です」

「そうは見えねえけど」

「本番♥本番しましょう♥」

「疲れちゃったおちんちんは元気にしますからあ♥」



「これから本番…♥」

「見て…。大好きなおちんちんに
メチャクチャにされちゃうと…」
……………♥♥」



「どうぞ。いっぱい使ってくださいね♡」

「それじゃ遠慮なく……ッ！」

「ああああああ♡挿入ってきますう♡」

「もう挿入れちゃったんか。じゃあシコって」

お♡

グッ

お♡

グッ

グッ

お♡

お♡

お♡

お♡

お♡

お♡

お♡

「はーい。はい。はい。」

「あ♡ビクッしてた♡お手で気持ちよかったですか？」

「俺のに集中してよッ」

「あんっ♥待って♥まだ動いちゃ♥シンん…♥
こっちのおちんちんも♥」

「ちんこに困まれて幸せそうだな」

「いったい何人食ってきたんだ？」

「ええと♥あの人とそこの代行さんだけですっ♥」



「あの人…って旦那さんか？
こんなことしてて何か言うことないのかよ」

「あの人に？」

「カメラこっちですよ」

「あなた….:….:….:見て♥」

「私、好きでもない…
知らない人達とセックスしちゃってます♥」

「それ….:….:….:興味ある？」

「あっ♥あっ♥今は….:….:いや♥動いちゃだめえ♥」



「だって、見て♡こんなに情熱的に子宮ノックしてくるんだもん♡」

「身体が孕みたがっても仕方ないよね♡」

お♡

「ああ♡いっぱい♡精子♡」

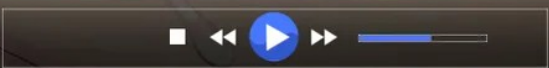
「あなた…あなたも出たんだ…でも、これから♡」

お♡

お♡

「あなたでも代行さんでも無い…ホントの他人の精子がこれからいっぱい注がれちゃうんだから♡」

「次？ああああ♡入っいいい♡」



「こっちのおちんちんは…そうそう少し柔らかかった人♡」

「この人は上手だね。おちんちんで弱点を攻めるのが得意なのだから、降りてきちゃった子宮口を擦られちゃうと……」

お♡

「イっ…♡おッ♡…ッ♡」

「ん——ッ♡ おおおお♡ほっ♡おおおお♡」

お♡

お♡

お♡

お♡

お♡

お♡

「妻い声♡こうなったらもうしばらく戻れないの♡」



「おっ♥オ♥ーッ！アアあ！♥」

「だ・か・ら♥」

「♡♡♡んあ♡♡♡むら♡♡♡むら♡♡♡ぶ♡♡♡ぶ♡♡♡」

「ふふ、私のおまんこバカになっちゃった」

「ポッ」

「あーっ、あなたもイってくれたのね♥」

「あなたもたっぷり気持ちよくなって全員で2週くらいしてたんだから」



「……あなたもこっち使いませんか？」

「ピルも……ゴムも……使わないで……」

「あなた……」

「来てくださり……♡さっぴかからずっとな欲しかったの♡」

あなた♡

ちと♡

あなた♡

あなた♡

「私を見ながら……犯してください♡」

あなた♡

お♡

お♡

お♡

お♡

お♡

お♡

お♡

お♡

お♡

お♡

お♡





あれから数カ月、まだこの歪な遊びは続いている

妻は代行屋を通してかなりの人数とも遊んだようだが離婚や出ていくような話はしていないし、他人を家に入れた痕跡も今のところない

ある時、恐る恐る今の生活について聞いた

妻曰く「あなたと結婚して今でも幸せよ」と、自分が輪姦されている映像の前で言ってきた

さらに後にして知ったことだが、どうやら妻は挿入されている時に別人のことを考えているらしい

いつからそうなったのか自分でも分からないそうだがおそらくは最初からそうだったんだろう

セックス代行屋なんていう他人に抱かれた際に私のことを想っていたんだろうか

私に抱かれながら他人のことを想像していたんだろうか

いずれにせよ取り返しがつかない以上、僕も楽しむことにした
今後、何か待ち構えているのか分からないが

映像の中の妻はぼくのことを考えてくれているのだから



END